

取締役会の実効性の分析・評価結果の概要について

2019年3月28日

株式会社ファンコミュニケーションズ

当社は、東京証券取引所が定める「コーポレートガバナンス・コード」に基づき、取締役会の機能の一層の向上を図るべく、取締役会の実効性に関する分析・評価を実施し、この度、2018年度の分析・評価を実施いたしましたので、以下の通り、その概要をお知らせいたします。

1. 分析及び評価の方法

当社は、2018年12月期を評価対象期間として、取締役及び監査役に対して、「取締役会の実効性評価に関する質問票」を用いて、自己評価を実施いたしました。

そして、その結果を基に、取締役及び監査役による分析を実施し、取締役会において取締役会の実効性に関する審議および確認を行いました。

<取締役会の実効性に関する質問票の内容>

- (1) 取締役会の構成（3問）
- (2) 取締役会の運営（6問）
- (3) 取締役会の役割（4問）
- (4) 取締役会を支える体制（4問）
- (5) 自己評価（1問）
- (6) 取締役会全般の実効性評価（1問）

2. 分析・評価結果の概要および今後の対応

前項における分析の結果、当社取締役会は、取締役会は十分に機能しており、その実効性が確保されているものと評価いたしました。

当期も、取締役会の役割の明確化やそれに伴う権限移譲及び運営の適正化等を図ってきており、その成果が出ているものと判断しております。その一方で、社外取締役をはじめ取締役及び監査役から、数多くの様々な建設的なご意見が提示されました。

これらにつきましては、引き続き今後の課題として認識し、さらなる改善とコーポレートガバナンス体制の一層の強化に努めて参ります。

以上